

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援・放課後等デイサービス すてっぴ1			
○保護者評価実施期間	2024年8月17日		～	2024年10月17日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数)	6
○従業者評価実施期間	2024年8月17日		～	2024年10月17日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数)	6
○事業者向け自己評価表作成日	2024年10月24日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	スタッフが多い	スタッフの充足率が高く、またそれぞれの職務経験より幅広いニーズの受け入れが可能。児童様の適正を見て人員配置、支援のアプローチなどを臨機応変に行うよう心がけている。スタッフが児童と関わる時間も多い。	内部共有に加え、外部研修などを通じてスタッフ対応力やプログラムの幅を広げていくよう、取り組んでいる。
2	OT的な製作が充実している	細かい作業やはさみ作業のサポートを手厚く配置している。	製作活動が一律の製作物になる中で、年齢層の幅もある為、各児童様にとっての難易度が異なっている。低学年、高学年、発達問わず充実感を得られる提案に取り組んでいる。
3	保護者様ニーズ、児童様のニーズに対する支援対応の積極性	児童様との対話、傾聴に力を入れており、リスクマネジメントを行った上で可能な限り個々の希望に沿う活動を行っている。月に1回の季節に応じたイベントを実施し、様々な体験が出来るよう工夫している。	関係機関との連携を強化、共有機会の場を設けて、更にニーズや強みの引き出しが出来るよう、努めたい。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	全体活動のプログラムに関し	日々の生活支援を放課後と言う限られた時間で支援する中で、平日だと年齢層や在住地域も踏まえ、下校時刻にも時間差があり、集団プログラムの実施が難しい事が多い。また、個々のニーズに応える事や、主体性の尊重に注力する中で、特定プログラム以外の全体一律の活動に時間配分出来かねる事がある。	短時間の集団活動等をなるべく多く取り入れる。
2	日々の小イベントが少ない	同上の理由となるが、日々の生活支援を放課後と言う限られた時間での支援で、平日だと年齢層や在住地域も踏まえ、下校時刻にも時間差がある事で、細かくイベントを行えない事もあ	短時間の集団活動等をなるべく多く取り入れる。
3	年齢層が広い	様々な年齢層の関わりの中でそれぞれに役割を与えていくメリットを感じる一方でプログラムの一律に出来ない事がある。一定のレンジ内での利用児童様が主ではあるが、日により幅が大きくなる事がある。	スタッフの充足を活かした小集団活動の実施。集団活動の中に各児への役割を与え、活動全体の整合を取る。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名		すてっぷ1		公表日		2024年 11 月 1 日					
				利用児童数		6		回収数		6	
		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見		ご意見を踏まえた対応		
環 境 ・ 体 制 整 備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	4	1		1					
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	5			1					
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	4			2					
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	6								
適 切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	6				初めての送迎を利用する際、こどもの不安を少しでも払拭できるように一緒に考えて下さったり、対応していただきました。		特性、環境、ニーズに応じた支援をスタッフ一同で考えて、各児童様への支援、アプローチを行って参ります。		
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	6								
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	6								
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	6								
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	6								
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	5			1	通所してから日が浅く、イベント等が行われる日に利用していないので分かりません。平日にもちょっとした製作や運動カリキュラムがあれば、		日々のルーティンワーク（宿題、課題）の順付け支援をしつつ、成長に応じたスモールステップのプログラム作成と実施を行います。		
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	3			3					
保 護 者 へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	6								
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	6								
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	3		1	2					
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	6								
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	5			1					
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	5			1					
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	2		1	3					
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	4	1		1					

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	5	1		LINEやサービス記録表など連絡手段があります。連絡帳アプリ等で普段の様子を画像付きで見られるととてもありがたいと思います。	
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	5		1		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	5	1			
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	1		5		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	1		5		
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	3		3		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	3		3		
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	6				
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	6			おむかえの時間が近づくといつもそわそわして嬉しそうです。本当にいつもありがとうございます。	
	29	事業所の支援に満足していますか。	6				

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日 2024 年 11 月 1 日				
すてっぷ1						
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援等のスペースとの関係で適切であるか。	6			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6		適切であり、加配人員も確保出来ている。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6		情報伝達は視覚的配慮にも注力しています。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6		生活空間の日時清掃はチェックシートを活用し、抜けなく清潔で衛生的な環境を提供出来ています。日によって児童様とも清掃を行う事で衛生意識を養い維持するよう心がけています。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6		相談室、更衣室などを活用し、個別の場所を確保する事が出来ている	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	4	2	支援、運営のいずれもPDCAサイクルに基づいた業務を遂行している。	項目により業務改善については内容共有が不十分なスタッフもいる（非常勤ドライバー職等）必要に応じた共有の徹底する。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		保護者様の意向は送迎やモニタリング時に行う対面に加え、連絡ツール（連絡帳、LINE）等にて意見を頂けている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		定期会議、日々の支援会議の中で意見が出来る場を設けている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	3	3	堺市育成事業や、様々な交流会、研修を通じた評価を得ているが、不十分な項目もある。業務改善は指摘の都度、行っている。	左記を継続し、支援者全員に評価、指摘項目、改善まで分かるよう、共有と記録を行う。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6		職員は受講希望する外部研修に参加している。法人内において別事業所からも関連研修の情報を共有し、なるべく多く周知するよう心がけている。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5	1	支援プログラムはアイデアを各スタッフが発案した随時プログラム作成、実践出来る環境である。	各対象者に公表も行うが、個々の課題に対する支援プログラムである事から全体向けプログラム公表と言う観点では不十分な部分もある。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	6		アセスメント各種シートの活用、直接ヒアリング、教育機関との連携の中で計画を作成しています。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5	1	日々の共有を細かく行った上で、計画に基づく支援を実践しています。	口頭で行われる場合もある為、視認ツールを使い支援計画の作成と実践の精度向上を図りたい。
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6		計画は共有に加え、随時児童発達支援管理責任者に確認出来る環境が整っている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6		フォーマル、インフォーマルどちらも活用し、確認しています。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6		ガイドラインに沿って設定している。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6			
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		一定の課題に対する支援活動をプログラムとして提供する中で、成長や進捗により変化を持たせています。	

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	6			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5	1	職員間での打ち合わせは全体が不可の場合もあるが、随時全体で把握、連携出来るよう、ツールの活用や時間差での共有などを心がけている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	4	2	職員の出勤時間、勤務終了時間も含め必ず終了後に行っていない場合もあるが、共有ノートや業務日報、電子共有ツールを使い、随時支援に関する共有を図っている。	左記にて改善を図っている。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6		支援記録は日時業務として徹底している。	検証、改善は各児具体的な目安期間が無い為、考察事例が多い児童様を中心にがちです。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6		適切に行えている。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6			
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4	2		
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6		児童発達支援管理責任者を中心に、主任従業者等も議題、様子に合わせて参画している。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6		教育機関などは引き継ぎ時、会議などにより連携を取るよう、注力しています。	教育機関との連携は意識しているが、主治医などの医療機関と直接やり取りする機会はほぼ無い。
	28	(28～30は、センターのみ回答)				
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	5	1		
	31	(31は、事業所のみ回答)	2	4		
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				現状、事業所として助言を受ける機会がほとんど無い。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	6			
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6		送迎時や、必要に応じてLINEなどの連絡手段を用いて、状況を伝えています。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4	2		外部研修などを利用し、実施及びスタッフのプログラム実施を行えるよう整備、検討したい。
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6		事前アセスメント含めて、随時機会を設けています。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6		説明、同意は必ず得ています。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	6		説明、同意は必ず得ています。	

保護者への説明等	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6		ご相談があれば、随時お話をさせて頂いています。	保護者様同士の交流会開催の事例はあるが、定期開催の提供とまでは至っていない。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	6		適切な対応を心がけています。	
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6		適切な対応を心がけています。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6		定期お便り、連絡帳、SNS、ホームページを通じて発信しています。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6			
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6		絵カード、音楽など視覚、聴覚にそれぞれ特化した伝達やアプローチを行っています。	一般地域住民様のみをご招待する取り組みは行えていません。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	3	3	マニュアル作成、提示は随時行える。	避難歩行訓練の回数を増やしたい。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6			
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6			
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6		事前確認は必ず行っています。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6			
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6			
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6			
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6		ヒヤリハットは記録を取り、再発防止策には必ず取り組んでいます。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6		年2回の法定研修を外部にて受講している。	